

第34回研究会

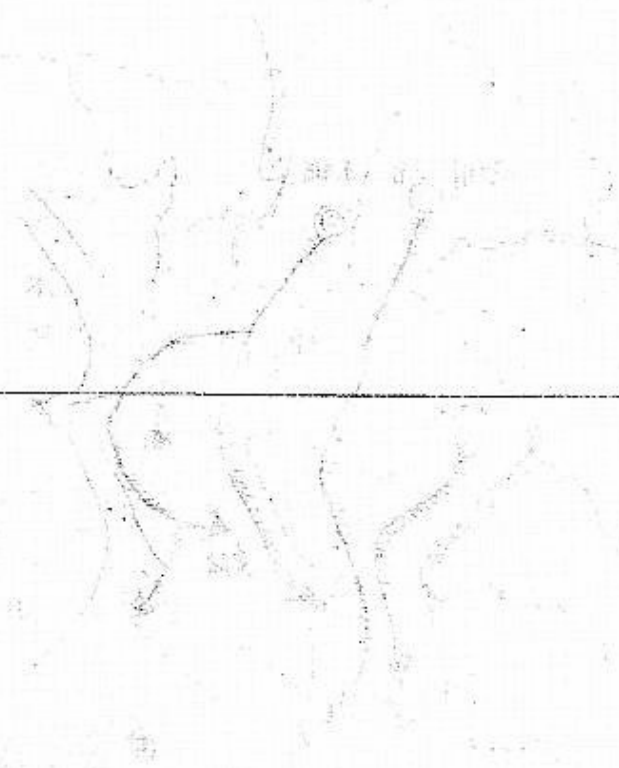
越ヶ谷御殿はどこにあったか

会 場 於福社会館第一会議室
期 日 昭和47.8.27.(日)午後1時

主 催 越谷市郷土研究会

移転と明暦の大火

四畝6坪(126坪) 江戸城の仮御殿とは 白書院、黒書院の
大会議室也控室、御座候時 5棟の内の一棟に起改造し仮御殿とす。



明暦の大火と越谷御殿 「東京の丁史」研究会資料 黒木喬氏宛表中の越谷御殿。是沢博士対談刊

- 1 時、明暦3年正月18日~19日~20日 (新暦では3月2~3~4日) / 1657年 3月
- 2 天然現象 昨秋来の乾天で水濡れ 当日風速6m 中日風速27mの暴風
- 3 焼失区域

	発火日時	発火場所	焼失	地蔵	延焼戸数
1	正月廿日 午後2時	本郷弘山町 本妙寺	北は湯島, 神田	東は深川, 南は八丁堀	48町
2	19日午前 11時	小石川 舊正町	駒込, 小石川から	江戸場, 新橋から海岸まで	53町
3	19日午後 4時	越前5丁目 民家	板田, 鰻岩下から	並方面一帯	40町

原因
状況 奥羽不明 流石の主なるもの 人 河岸魚商人の自室放火の自叙説 (2) 山井正西と丸橋起跡の
考案取調 (3) 板子越後守と本妙寺とのかくれお返し 状況解府の外火燃焼様式と正月行事多岐

堺の大火の火元及焼失方位

そのI 資料

南表 現取四指図

- 1 本妙寺附近
- 2 龍津宮附近
- 3 本郷火元附近
- 4 吉原と西本願寺方面

そのII

江戸の月別 火事発生比 (町)

1月	19.92	%
2月	16.22	
3月	8.42	
4月	7.60	
5月	3.08	
6月	1.03	
7月	2.87	
8月	2.67	
9月	3.29	
10月	5.13	
11月	11.50	
12月	18.07	

そのIII

正月上旬の火事

元日	夜	四谷竹町附近
二日	午前9時	松平越後守屋 (麹町半蔵門外の堀端)
三日		
四日	夜	赤坂附近
五日	午後10時	本郷御所町
九日	夜半	麹町

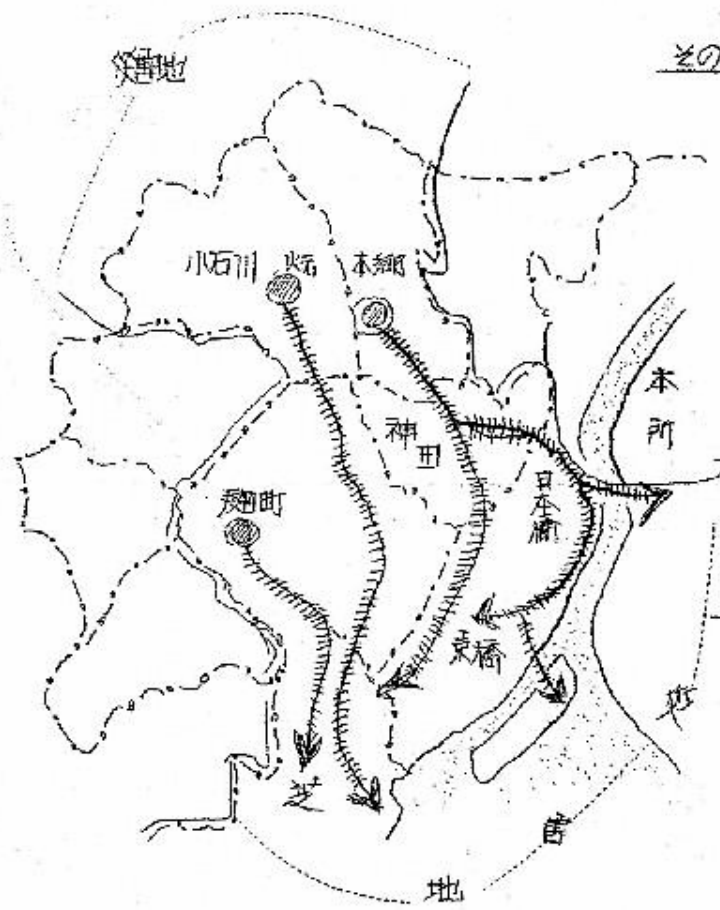
そのIV

火元へ方位別

風向

(百積を証数で)

月太陽高 (下日)	北	北西	南西	南	南東	計
1月 12~11	177	210	0	0	0	387町
2月 1~12	202	249	97	0	0	548町
3月 2~1	554	257	155	55	0	1,021町
4月 3~2	156	48	254	126	0	584町
5月 4~3	0	75	32	86	15	208町
6月 5~4	0	0	0	30	0	30町
7月 6~5	0	0	0	0	0	
8月 7~6	0	0	0	0	0	
9月 8~7	0	0	51	0	0	51町
10月 9~8	0	0	0	123	0	123町
11月 10~9	82	33	0	0	0	115町
11月 11~10	105	62	0	0	0	167町
計	1,276	934	589	420	15	3,234町



見取図！資料

∴ 皮面建てるなら∴印地点

実際は会田出羽屋敷 目下民有地

会田病院を横より川土手よりの所

前方新国道沿って

藤岡家跡より30町

奥行34町半

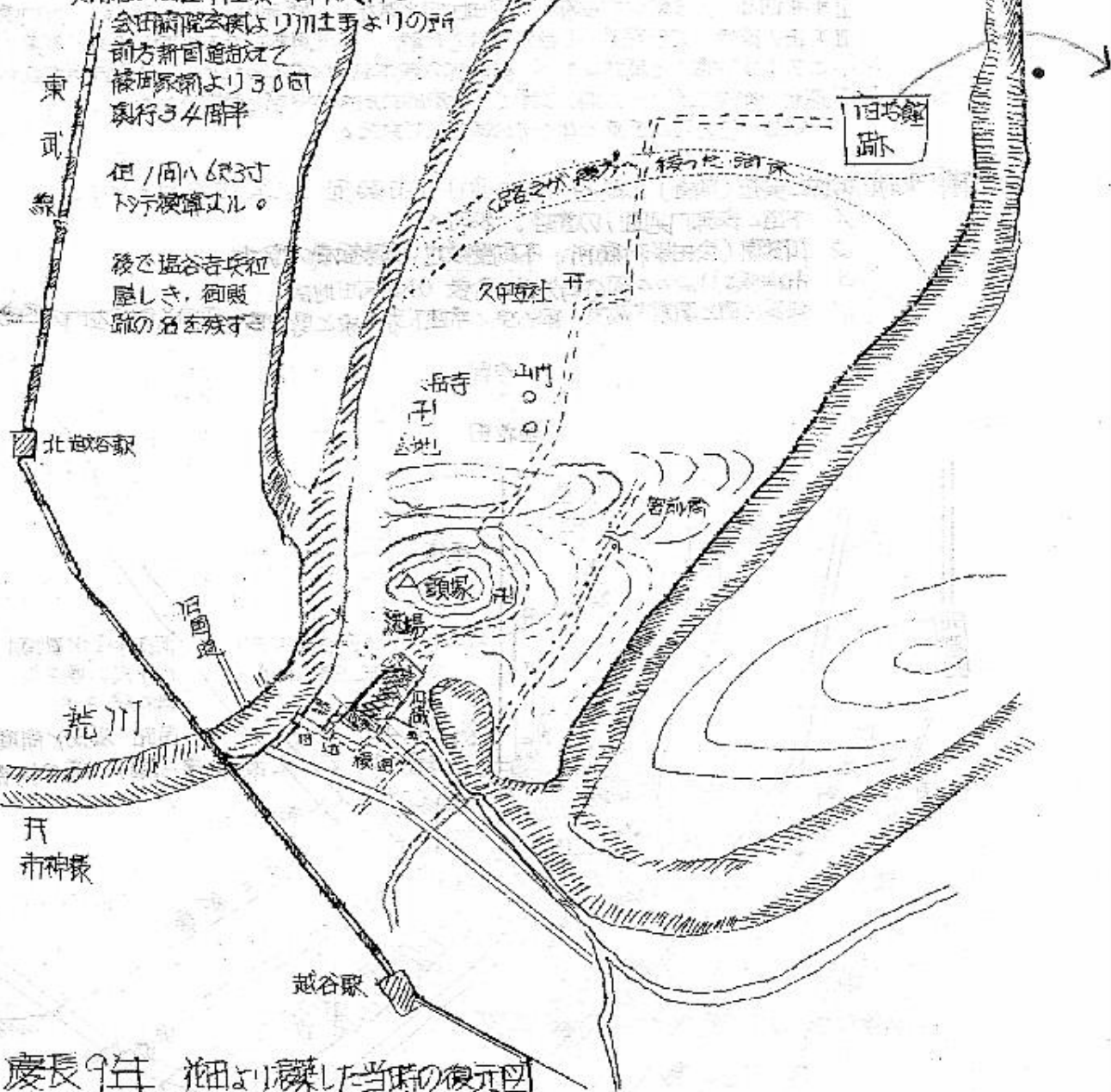
柱1間ハ6尺3寸

トテ渡障子ル。

後で塩谷寺兵征

屋しき、御殿

跡の名を残す



慶長9年 花田より離れた当時の復元図

1. 天嶽寺 殿脇崩なし 丘陵地麓まで今の墓地は福の平地緩急と見る 久伊豆社跡あるも現在の社殿でなく川に石祠(カウ)である
2. 丘陵地には 坊又庵があつたと見られる 建長の祓禊はその参道に建てられたものと見られる
3. 会田家の領用石の資1坂 荒川の曲り角に西洗場(敷石使用)と丘陵一角に 頭塚があつた
4. 現在の田舎跡から大木木止 荒川の入江で逆流の時 水多し、湿地、低地である。
5. 柳町が昔前橋なく花田地である。
6. 旧道は大木木より 不動道前へ寺路左折して大沢医院 横通川を三段折曲 荒川堤防へ出る
7. その下 橋下に御殿屋敷通川、参通り一現会田病院前へ出る この前に御殿が得ざる。

越谷御殿は此所と思う。 結び 山崎氏 石塚氏 三原の総合意見

下段説明 1. 寛永七年 1. 御殿割 排水 熊谷又下河原渡 菅前橋土橋 柳町新道
 2. 宝永四年 1/3倍の巾広積 花田田圃水路なし 新堀田へ 板橋 山門直造渡更が
 3. 大正ノ政修 大石発掘 土台石と考えた説 馬洗場成石なるも前同者多く従来この説による。
 この土手の植木と堤防並木が 榎岡林の残木跡かと考えられた。この説も有力な支持者あり。
 4. 昭和の改修工事と此の時の工事で 御殿跡は河原の中流と推定された。
 以上 ⅢとⅣが主流となりて公認されて来た。

資料 文献の吟味と実在(踏査)の結果下記の通り 御殿跡として比定せんとす。

1. 下道と表御門(堀通)の道路。校町へ。
2. 川渡院(会田家祈禱所、不動尊敷地、御殿御儀の除地)
3. 市神様より200間の馬洗場の合致(小泉氏旧地図)
4. 武長の町と真栗市政変 最も早く常陸下妻一城と野田原と花田丸石御門の西合町から。



結び Ⅱ 明暦大火で焼棄された江尹城内仮御殿とは 松の廊下のつきぎり 黒書院の五棟の内の一棟 1/6の巨勢大会議堂 他書院 茶を準備する一室計の堂 (家細代) 西ノ丸御軍大工 熊岡久兵衛の手にて修復された棟梁である。

文献 ① 武井年表、② 豊原の歴史、③ 徳川家紀、④ 日本歴史新書、大石棟三郎と元禄時代、寺に所収さる。